

資料1 オフセット・クレジット(J-VER)制度における対象プロジェクト種類一覧

ポジティブ リスト番号	方法論 番号	区分	プロジェクト	備考
E001	JEAM 001	エネルギー分野	化石燃料から未利用の木質バイオマスへのボイラー燃料代替	5.ベースライン排出量の算定、及び、7.モニタリング：排出削減量の算定に用いる単位発熱量、排出係数、ボイラー効率について、高位又は低位のいずれかで統一することの注記を追加した。 5.未利用材のモニタリング：購買データで把握する場合であっても、購買データが重量ではなく、容積量から比重を用いて重要換算している場合等においてはモニタリングパターンCとする旨を記載した。
E002	JEAM 002	エネルギー分野	化石燃料から木質ペレットへのボイラー燃料代替	同上
E003	JEAM 003	エネルギー分野	木質ペレットストーブの使用	【適格性基準】条件3：ペレットの販売量で把握できない場合は、購入量で把握する方法について説明を追記。 【方法論】2.ベースラインシナリオ：新規設備の場合についての記述を明確化。 【方法論】5.ベースライン排出量の算定：ストーブ効率について、デフォルト値が高位発熱量ベースであることを明記。 【方法論】5.ベースライン排出量の算定、及び、7.モニタリング：排出削減量の算定に用いる単位発熱量、排出係数、ストーブ効率について、高位又は低位のいずれかで統一することの注記を追加した。
E004	JEAM 004	エネルギー分野	廃食用油由来のバイオディーゼル燃料の車両等における利用 (旧：廃食用油由来のバイオディーゼル燃料の車両における利用)	5.ベースライン排出量の算定、及び、7.モニタリング：排出削減量の算定に用いる単位発熱量、排出係数、ボイラー効率について、高位又は低位のいずれかで統一することの注記を追加した。 廃食用油について、日本国内で発生した廃食用油のみをプロジェクト対象とし、海外で発生した廃食用油によって製造されたバイオディーゼル燃料等は対象外であることを明確にした。 5.ベースラインの排出量算定、7.モニタリング項目に、廃食用油回収・バイオディーゼル燃料輸送に、製造したバイオディーゼルを使用する場合には、車両等で1年間に使用されたバイオディーゼル燃料の量から差し引くべきことを追記した。 参考1③「バイオディーゼル燃料の製造・利用に係るガイドライン」全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会の平成22年3月15日改正を反映。(改正日付の修正)

ポジティブ リスト番号	方法論 番号	区分	プロジェクト	備考
E005	JEAM 005	エネルギー分野	下水汚泥由来バイオマス固形燃料による化石燃料代替	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5.ベースライン排出量の算定、及び、7.モニタリング：排出削減量の算定に用いる単位発熱量、排出係数について、高位発熱量で統一することの注記を追加した。 ・ 5.2.メタンによるベースライン排出量の算定：メタンをCO2換算するためのパラメータ「GWPC_{H4}：メタンガスの地球温暖化係数(21)」を追記した。 ・ 5.2.メタンによるベースライン排出量の算定：パラメータ「EF汚泥,y」値の誤記を下記の通り修正した。「誤113.3→正133.3」
E006	JEAM 006	エネルギー分野	低温排熱回収・利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5.ベースライン排出量の算定、及び、7.モニタリング：排出削減量の算定に用いる単位発熱量、排出係数、ボイラー効率について、高位又は低位のいずれかで統一することの注記を追加した。
E007	JEAM 007	エネルギー分野	薪ストーブにおける薪の使用	新規追加（資料2参照）
E008	JEAM 008	エネルギー分野	情報通信技術を活用した、輸送の効率化による燃料消費量削減	新規追加（資料3参照）
E009	JEAM 009	エネルギー分野	情報通信技術を活用した、検針等車両による燃料消費量削減	新規追加（資料4参照）
R001	JRAM 001	吸収源	森林経営活動によるCO2吸収量の増大（間伐促進型プロジェクト）	5. 吸収量の算定 及び 7. モニタリング方法に記載されている吸収量算定のパラメータ“AreaForest”及び“AreaForest-cut”の定義が「樹種別・林齢別の面積」であることを明記した。
R002	JRAM 002	吸収源	森林経営活動によるCO2吸収量の増大（持続可能な森林経営促進型プロジェクト）	同上
R003	JRAM 003	吸収源	植林活動によるCO2吸収量の増大	同上